奥中章人(美術家/あおいおあ共同代表)　R3.06.14

AO Institute of Arts

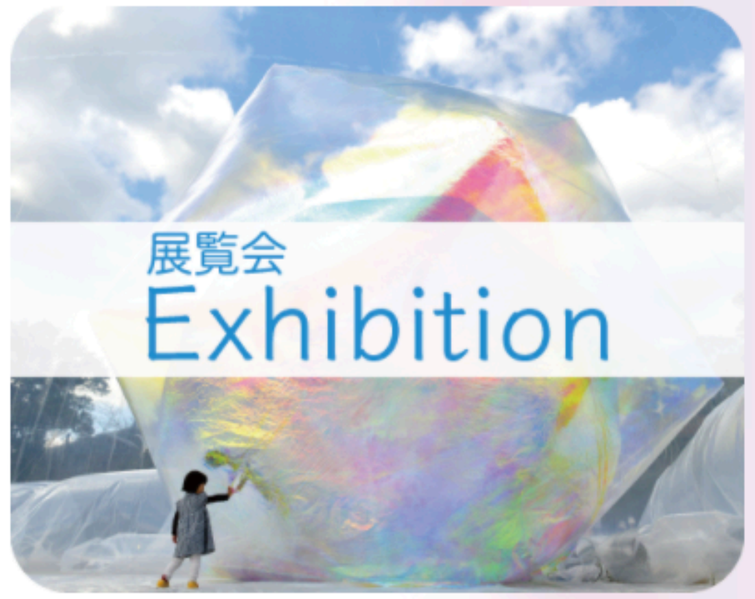
ラピュタの車窓から

２０２０～２０２１春の進捗

AO Institute of Arts

あおいおあとは | アートセラピー | ワークショップ | 展覧会 | ブログ | アクセス

◆会社事業

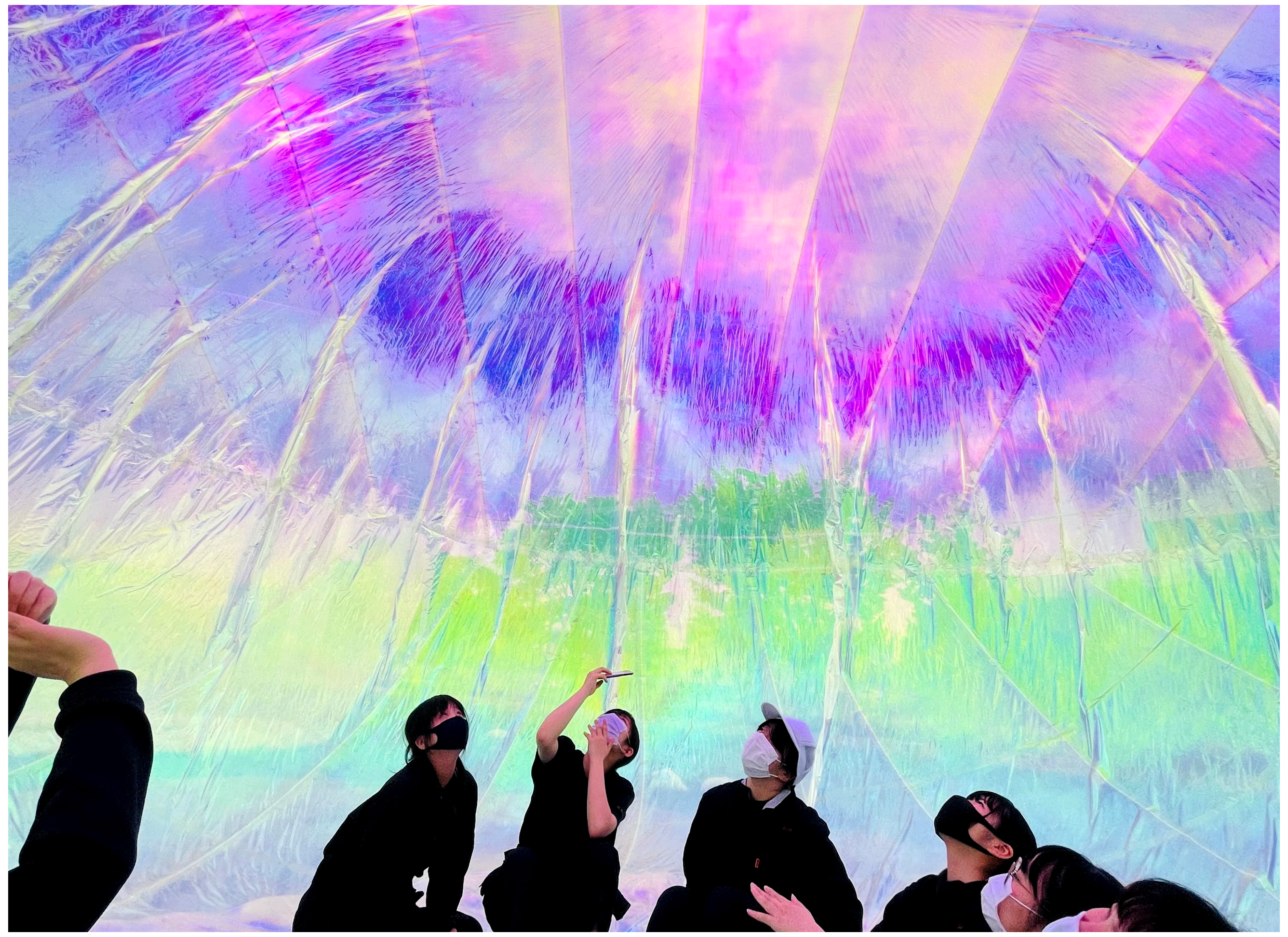


北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs @art_sdgs · 6月11日
#北九州未来創造芸術祭 ディレクターの南條史生さん @fnanjo と落合陽一さん @ochyai のトーク。
北九州の歴史、イヴァン·イリイチ、SDGsなど、この二人だからこそできる多岐に亘る話題があまりにも面白い。
youtube.com/watch?v=laqaJj...
#CaptionThisMW #MuseumWeek #ミュージアムウィーク #ARTforSDGs

北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs トークセッ...
「物化する計算機　自然と対峙し、質量と映像の間にある憧憬や情念を反芻する」をモットーにメデ...
youtube.com

落合陽一＆南條史生

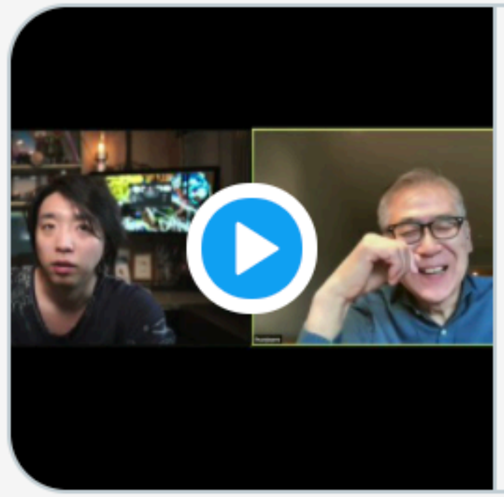
北九州未来創造芸術祭
ART for SDGs
真のゆたかさのために
2021年4月29日(木・祝)-5月9日(日)



落合陽一氏＆南條史生氏との交流

落合陽一と南條

北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs @art_sdgs ·
#北九州未来創造芸術祭 ディレクターの南條史生さ
さん @ochyai のトーク。
北九州の歴史、イヴァン·イリイチ、SDGsなど、こ
多岐に亘る話題があまりにも面白い。
youtube.com/watch?v=laqaJj...
#CaptionThisMW #MuseumWeek #ミュージアムウ



北九州未来創造芸術祭 ART fo
「物化する計算機　自然と対
にある憧憬や情念を反芻する」
youtube.com

今回のメディア露出の一部例

奥中章人

《INTER-WORLD/SPHERE: The three bodies》 2021

“大気の芸術”から、
SDGsを考える。

メイン会場の一つ、北九州市の東田大通り公園に展示されている巨大な楕円球型の3つのバルーン。天候や、見る角度などによってさまざまな色合いに見えるこの物体こそ、美術家・奥中章人さんの作品。

触れば“ポヨポヨ”っとした触感。風が吹けば当然揺れるし、中に人が入れば、動きを察知したかのように、作品全体が揺れ動く。見えない空気というものが可視化され、私たちの身近に当たり前のように存在する環境に、自然と意識が向かい出す。

「アートって文化であると同時に、社会との関わりが深いもの。個々が持っているフィルターで発信する、表現する、社会に問いかけることで、なにかSDGsのゴールに対して進めることがあるのかなあと、今回参加する中で思うようになりました」と奥中さん。特徴的なフィルムにも奥中さんの想いがあった。「見る人の視点や、日照条件によって、印象を劇的に変えたいなって思っていて。同じものを見ていたとしても、僕らはそれぞれが違うものを見ているはず。なにか、ものの見方が違うって、すてきだなって思いませんか？　そういうところにたどり着けたらなって」。光を通じ、“多様であることが普通”をも暗示しているのだろう。

今回、地元にある八幡中央高校の芸術コースの生徒をはじめ、北九州市のボランティアの人たち、総勢100人以上が作品づくりに関わった。奥中さんのこれまでの作品でも行われてきたものなのだが、そこにも多様性に対する独自の考えが宿る。「僕はみんなの交差点になりたいなって思っています。僕って人間がいて、そこに知らなかった人が交差して、友達になる。今回も高校生と大学生の交流があったり、20年選手のボランティアさんが僕に代わって作業をみんなに教えてくれたり。本当にすばらしい環境だった。年齢が異なるコミュニティ。交ざり合うって、ものすごくいいんですよ」。ローカリティを大切にした多世代から成るコミュニティの必要性は、さまざまな場面で求められているが、奥中さんは制作過程で軽々と構築してしまう。

アートから考えるSDGs。その答えが奥中さんの作品には詰まっている。

1.作品の内部に立つ奥中章人さん。2.いくつもの気密室を通り中に入っていく様子。3.風速計を設置する奥中さん。風、雨、気圧など、自然環境の影響が顕著な作品だからこそ。4.気象条件や見る角度によって、さまざまな表情を見せるバルーン。5.VRによって屋外設置のイメージを膨らませた。6.バルーンの触感＝空気の触感。見えない空気を感じられる。7.奥中さん（右）と制作スタッフたち。8.バルーンはサーキュレーターで膨らます。時節柄、数分間で中の空気が完全に入れ替わる仕組みに。9.10.来場者も内部に入ることができた。

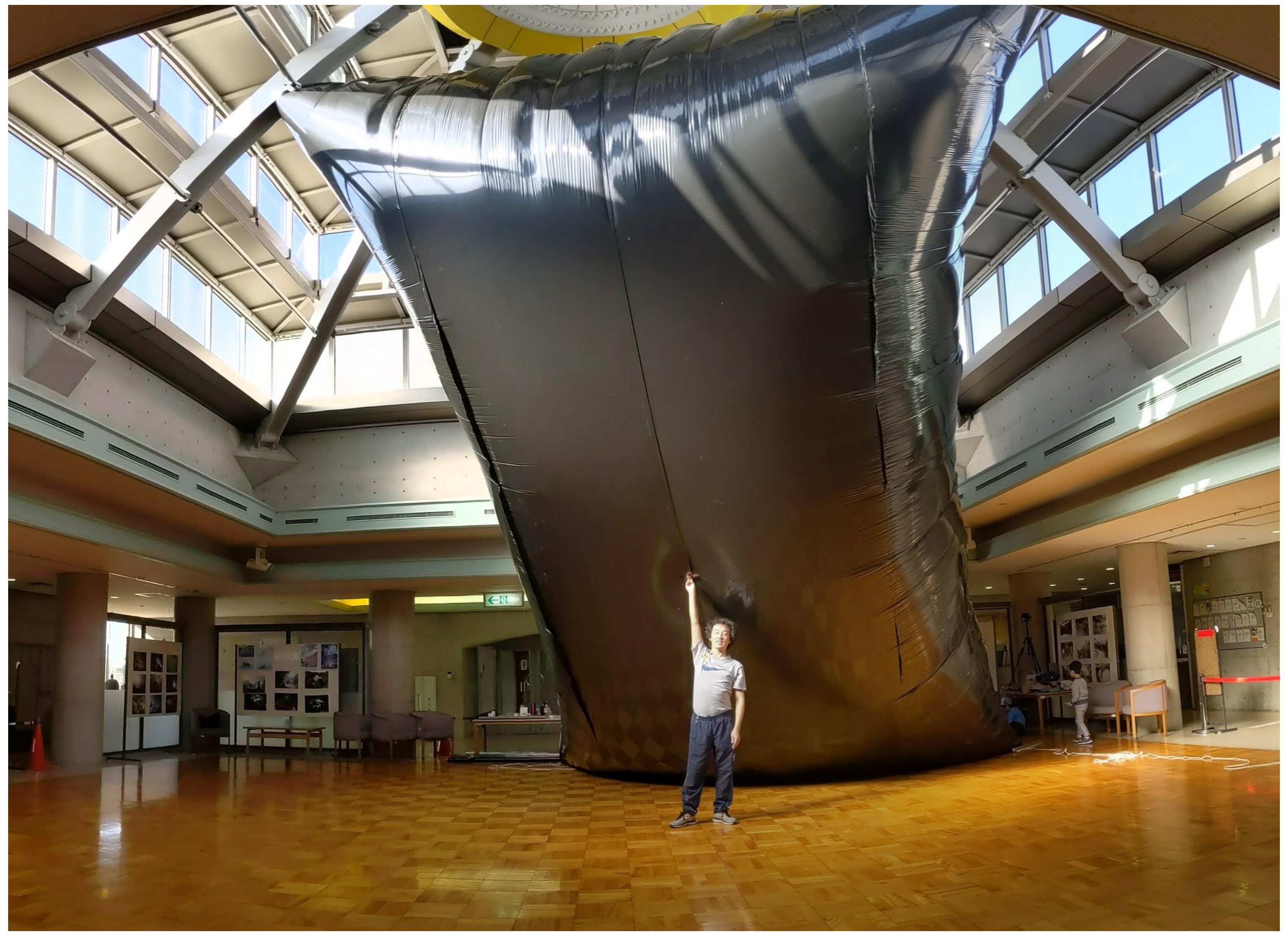
「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs」

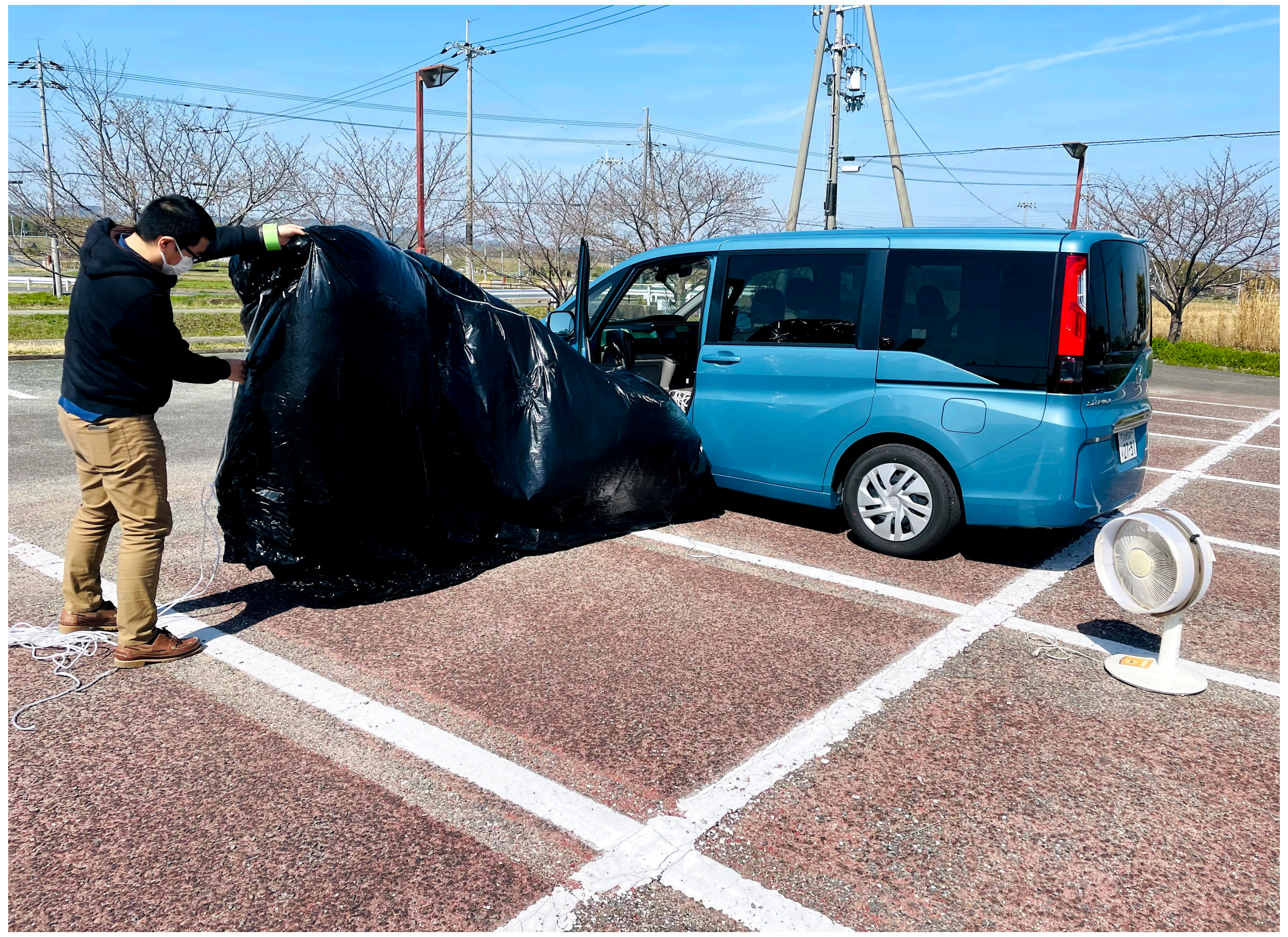
——アーティストたちの視点から、SDGsをとらえてみると。

「SDGs」を冠した芸術祭が
福岡県北九州市を舞台に開催。
アートから考えるSDGsやこれからの社会について、
参加アーティストへのインタビューから読み解きます。

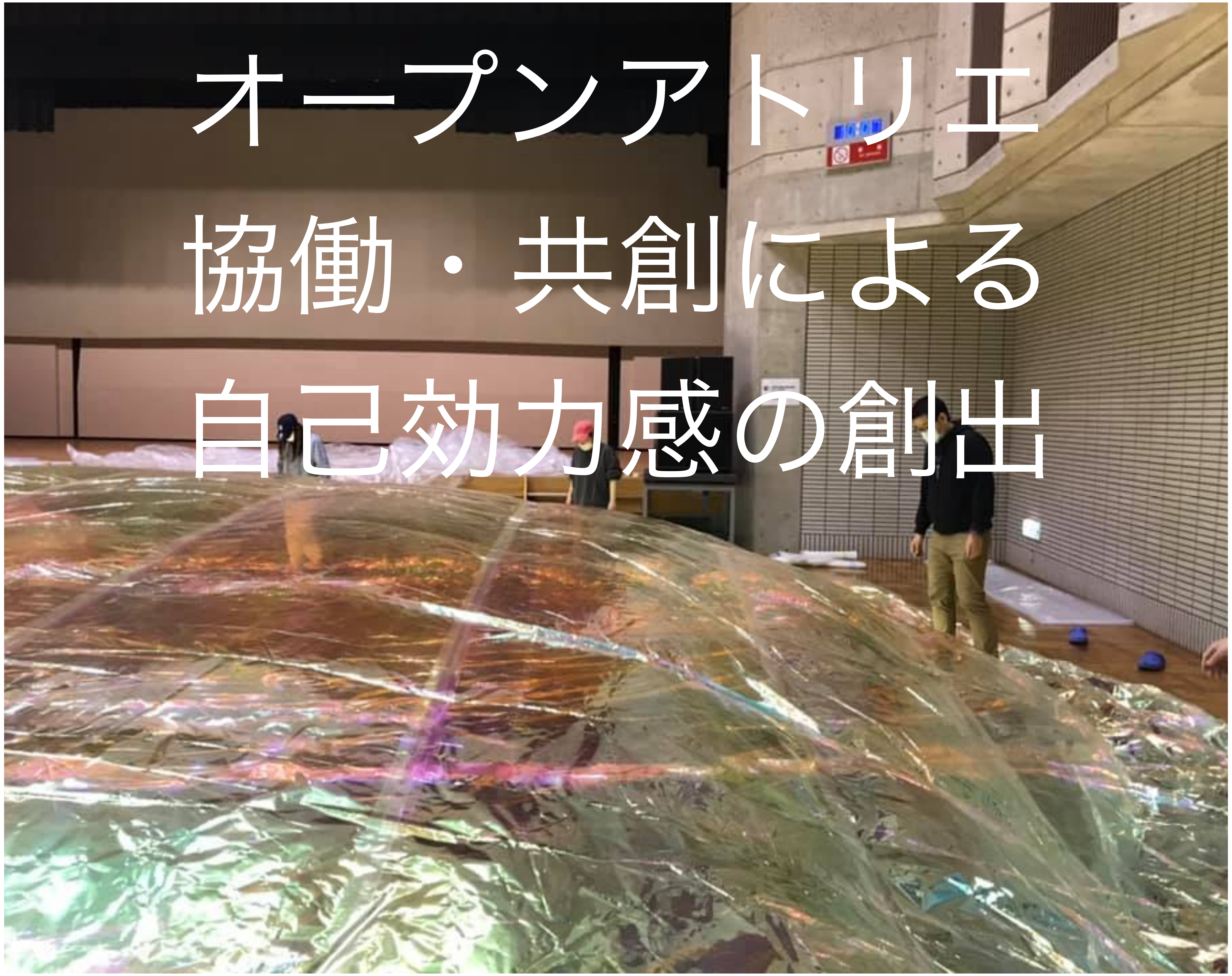
photographs by Mao Yamamoto　text by Yuki Inui

人新世における
太陽熱気球の実践

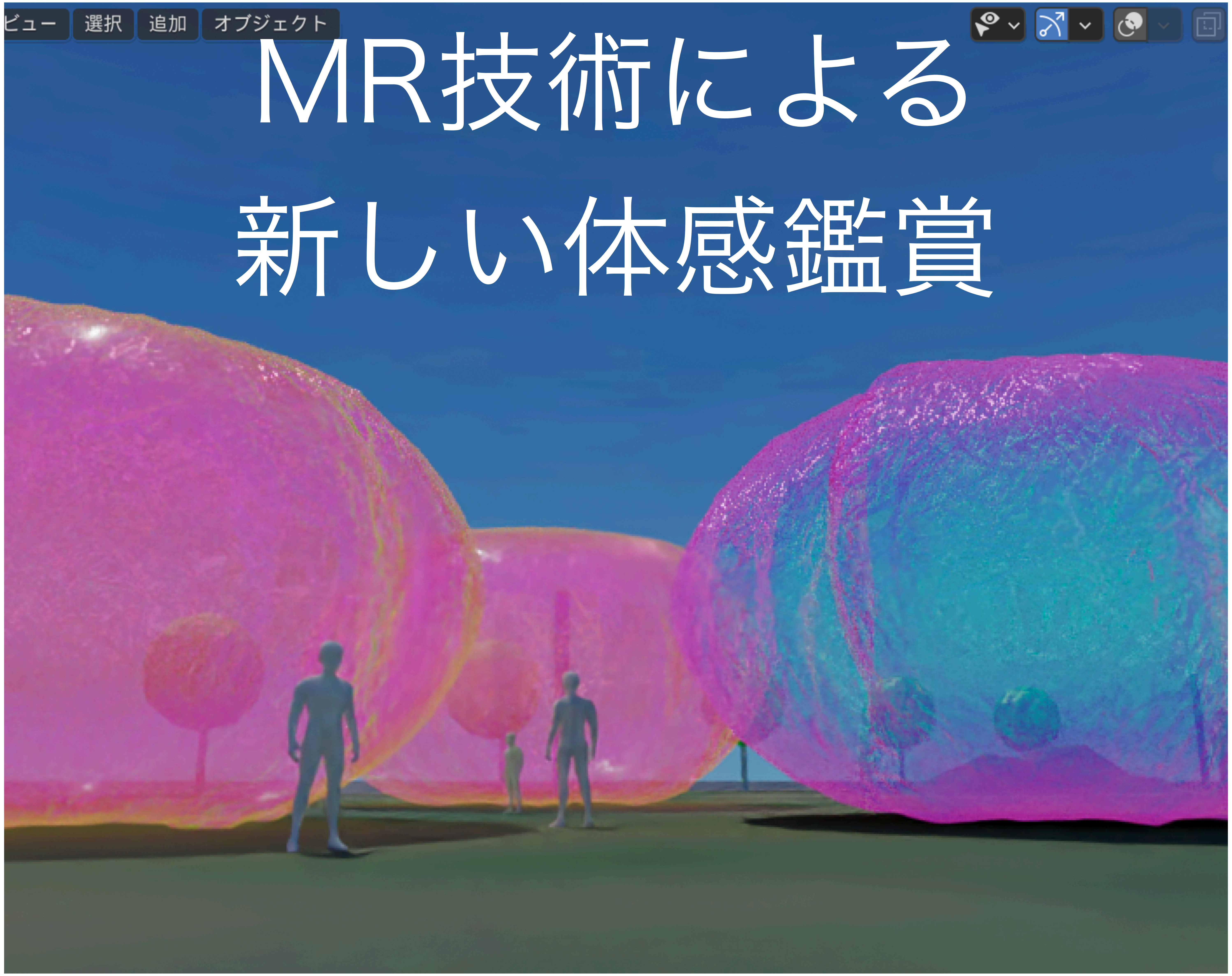


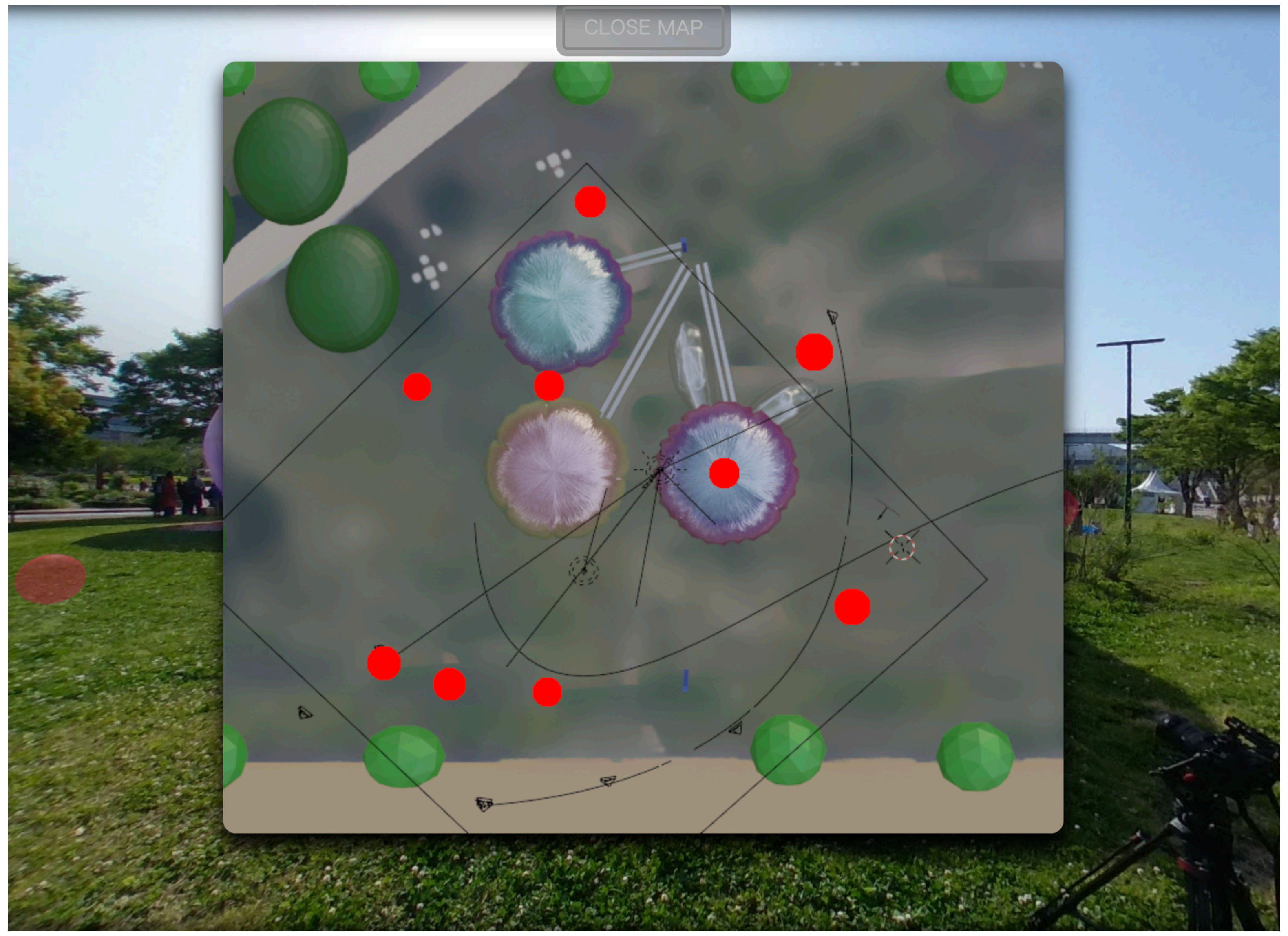


オープンアトリエ
協働・共創による
自己効力感の創出



MR技術による新しい体感鑑賞





今後の予定
展覧会・オープンアトリエ・ワークショップ

- ７月　東京オリンピック・パラリンピック富士市推進委員会文化プログラム
- ７月以降　子どもたち／大人たちとの太陽熱気球ワークショップ
- １０月　国際芸術祭ビワコビエンナーレ　プレエキシビジョン
- １０〜１１月　木津川アート（木津川市役所エントランス）
- 来年３月　静岡パフォーミング・アーツ（仮題）
- 来年３月〜再来年　西日本巡回展（仮題）（きょうと視覚文化財団）
- 来年５月　メーカーフェア京都

なぜこのプランを？

学生の頃に研究していた幻想建築と、現在の自身の巨大な体験型アートや、誰もが参加できるワークショップなどが、万博という舞台を得て結実してきたから。

どんな取り組みで何を実現するの？

誰ひとり取り残されない自己実現のための共創オープンアトリエを通じて、

フリーエネルギーや環境問題についてアート思考からアプローチします。

目指すものは**太陽熱と気圧のみで浮遊する空中都市**です。

みなさんから欲しいアイデアや協力

■賛同者 & 協力者

このアートプロジェクトは、技術も試験機会も何もかもが足りていませんので大募集中

■資金

資金繰りの先行きが不透明です！我々が以前に参加した大阪関西国際芸術祭の2025年万博における展覧会内でのお披露目を想定していますが、芸術祭から割り当てられる制作費と、他にも芸術財団の助成金を申請予定ですが、アート関連は日本では未だ社会に有効的とは考えられていないため、資金繰りが難航します。

そこで我々のプロジェクトを支えていける良いアイデアがあればぜひご教授願います